

若者に選ばれるサステナブルな紙のまち創造事業

愛媛県四国中央市（2023年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	本市は、愛媛県の東端、四国の中央に位置する都市であり、市街地は瀬戸内海に面し、法皇山脈と四国山地の間に吉野川支流の銅山川を有しており、町・海・山と多様な表情を持っている。 産業構造としては、江戸中期に市内の山間部で産声を上げた紙漉きが発展し、この紙・パルプ、紙加工製品が本市の工業出荷額の八割強を占める「紙関連産業都市」である。 課題としては、紙産業におけるエネルギー転換、人材確保、ペーパーレス化に対応する新たな製品等の開発があげられ、これに対して市内外の多様な企業や人材が連携した解決を行うことを目標としている。	2.関連するゴール 
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	本市は、地域における若年層の流出、紙産業におけるDX・ペーパーレス化の影響への対応、働き手の確保、カーボンニュートラルへの対応等が課題となっている。こうした課題に対し、多様な主体が連携し、若者に選ばれるまち、持続可能な新しい紙産業に支えられる街を目指して様々な取組を推進する。	
4.自治体SDGs推進等に向けた取組 ■ 高校生が理想の未来のまちを表現するイベント「18っ祭！」の開催 概要：四国中央市の未来を担う高校生が企画・運営を担うことで、四国中央市にて学校を越えた仲間との活動経験を通じて、未来への歩みを後押しするとともに、若い発想による時代の「今」を市民等が享受しながら、5年後、10年後の市の将来を見据えたシティプロモーションへの能動的な参画者を増やすことを目指すものである。 内容：市内の高校生が集まり、理想の未来のまちについて討議、それを表現するイベントを開催。 2023年度の開催内容：伊予水引を使ったワークショップ、マルシェ、ダンス、音楽ライブ、市内企業のPRブース等 連携：イベントの実施にあたり、「高校生自らが」地域の商店や、外部の専門家（PR関係）に対して、実施に向けた諸課題を相談し、連携して運営。 ➡高校生自らが主体的に地域と関わることで強固な関係性を構築。	6.取組成果 本イベントは高校生が主体となり、市内企業や市民に協力をいただきながら取り組んでいるが、企業側も高校生とのつながりを形成できるというメリットもあり、人材確保に悩む企業にとっても、高校生に自社を知ってもらう良い機会になった。2回目の開催となった令和5年度は来場者も増加し（昨年度比25%増）、市民からの認知度もアップした。 イベントでは伝統産業でもある「伊予水引」のワークショップを開催し、子どもからお年寄りまで多くの方が参加された。伝統産業が今後も長く残っていくため、特に小さなお子様がたくさん参加いただけたことは大きな価値があった。 また、参加した高校生からは、「自らが企画・運営に携わり、苦労することもあったが地域とのつながりを感じ、達成感もあり参加してよかった」などという感想もあり、高校生たちの充実感もうかがえた。	
5.取組推進の工夫 令和5年度は2回目の開催であり、高校生も我々も探りながらの企画・運営だったが、前回参加した学生（当時高校3年生）にもオンライン会議を通して助言をしていただき、前回の問題点・改善点などを共有し運営を行った。	7.今後の展開策 令和4年度にスタートした本イベントを、これからの当市を代表するイベントに成長にさせていく必要がある。そのため、より高校生や若者が主体的で、自主的に参加したいと思える取組を検討している。若者の発想力や行動力を存分に発揮できるような企画【中高生による市のPR動画を制作（若者目線の市の魅力の発信）、市民参加型イベントなど】を展開し、市外からの参加者の増加も見据えた取組にしていきたいと考えている。	
8.他地域への展開状況（普及効果）	本市が抱える社会課題を解決するために、市内企業や学校を対象に所属を超えた連携を可能とする仕組みを構築。特に、若者は社会課題解決に対する意識が高いこともあり、議論は自走する。➡企業や高校を巻き込んだ取組は他の地域でも実装可能（未実装）	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2023年度選定

愛媛県四国中央市

2024年9月

SDGs未来都市計画名	四国中央市 SDGs未来都市計画
自治体SDGsモデル事業 又は特に注力する先導的取組	—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

四国中央市 SDGs未来都市計画

（2）2030年のあるべき姿

多様な「結び」により実現する、若者に選ばれ、持続可能な紙産業に支えられる魅力都市・四国中央市

1.持続可能な紙産業に支えられる環境志向の都市
2.人と人が繋がり新たな価値を生み出す都市

（3）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済			社会			環境	
							

（4）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※ []内はゴール・ターゲット番号	当初値		2023年（現状値）		2030年（目標値）		達成度 （%）
1	「若者と企業の交流会」への参加者数 【5.5、8.5】	2023年 2月	15 名	2023年12月	25 名	2030年	30 名	67%
2	市SDGsPFで出展するビジネスマッチング展示会における名刺交換数 【9.b】	2023年 2月	411 枚	2023年7月	303 枚	2030年	600 枚	-57%
3	「新宮茶」SNSのフォロワー数 【8.9】	2023年 2月	476 名	2024年1月	642 名	2030年	1,000 名	32%
4	シティプロモーションイベント「18っ祭！」参加者数 【11.3】	2023年3月	3,000 名	2024年3月	4,000 名	2030年	5,000 名	50%
5	アンケートにおいて「子育てが楽しい都市」と回答した割合 【3.7、4.2】	2021年 9月	47.3 %	2024年3月	67.55 %	2030年	70 %	89%
6	脱炭素につながる製品開発に対する補助事業の活用件数 【13.2】	2023年 2月	未実施	2024年3月	3 件	2030年	24 件（累計）	13%
7	サステナブルな消費活動に関する普及啓発イベントへの参加者数 【12.4】	2022年 8月	800 名	2024年3月	900 名	2030年	1,200 名	25%

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標 1：「若者と企業の交流会」への参加者数
・コロナの影響が落ち着き、対面での就職活動が戻ってきたこと、また、SNSでの周知が参加者増加につながった。

●指標 2：市SDGsPFで出展するビジネスマッチング展示会における名刺交換数
・初出展は素材中心の展示会、2回目は紙製品の展示会ということもあり、来場者の業種等の変化もあり名刺交換枚数に変動があった。
ブースコンセプトなどの工夫をし、より参加企業のPRができるよう取り組む。

●指標 4：シティプロモーションイベント「18っ祭！」参加者数
・初開催時から会場を変更し、市民ホール全体を会場としたことにより、企画数の増加・参加者の増加につながった。
次回以降は、より若者が中心の企画・運営を計画し、高校生たちが積極的に参加したいと思えるイベントにしていく。

●指標 6：脱炭素につながる製品開発に対する補助事業の活用件数
・事業に対する企業の認知不足もあり件数が芳しくなかった。現在では担当課以外にも依頼し、企業への周知を徹底するよう心がけている。

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）								2023年度
1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年								
（1）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況								
No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2024年実績	2025年実績	2025年目標値	達成度（%）
1	紙産業の持続的な発展および地域ビジネスの振興に資する取組	若者と企業の交流会への参加者数	2023年2月15名	2023年12月25名			2025年20名	200%
2	紙産業の持続的な発展および地域ビジネスの振興に資する取組	若手社員異業種合同研修会参加者数	2023年2月40名	2023年10月33名			2025年60名	-35%
3	紙産業の持続的な発展および地域ビジネスの振興に資する取組	アイデアソンにおける開催地（都市部）からの参加者数	2022年11月24名	2023年未実施			2025年120名	—
4	紙産業の持続的な発展および地域ビジネスの振興に資する取組	市SDGsPFで出展するビジネスマッチング展示会における名刺交換数	2023年2月411枚	2023年7月303枚			2025年500枚	-121%
5	若年層のつながりの創出、および活動の振興に関する取組	本市に住みたいと思う高校生の割合（アンケート）	2022年9月37.8%	2023年未実施			2025年60%	—
6	若年層のつながりの創出、および活動の振興に関する取組	市公式note「市民リポーター」記事閲覧数	2023年2月未集計	2024年3月752回			2025年1,000回	75%
7	若年層のつながりの創出、および活動の振興に関する取組	シティプロモーション部員のUターン意向「はい」と回答した割合	2023年未実施	2023年未実施			2025年80%	—
8	子育て環境整備に関する取組	アンケートにおいて「子育てが楽しい都市」と回答した割合	2021年9月47.3%	2024年3月67.5%			2025年55%	262%
9	子育て環境整備に関する取組	「しこちゅ〜すくすくナビ」の登録者数	2023年6月670件	2024年3月917件			2025年1,200件	47%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2024年実績	2025年実績	2025年目標値	達成度(%)
10	カーボンニュートラルの推進に関する取組・廃棄物の削減に関する取組	脱炭素につながる製品開発に対する補助事業の活用件数	2023年2月 未実施	2024年3月 3件			2025年 9件(累計)	33%
11	カーボンニュートラルの推進に関する取組・廃棄物の削減に関する取組	勉強会への参加企業数	2023年 30社	2023年 未実施			2025年 150件(累計)	—
12	カーボンニュートラルの推進に関する取組・廃棄物の削減に関する取組	プレゼントキャンペーン投稿数	2023年 未実施	2024年3月 未実施			2025年 100件	—

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

令和4年度に設置した「四国中央市SDGs推進プラットフォーム」は市内でSDGsを推進する企業、団体、金融機関等で構成する組織であり、2024年3月末時点で73の企業や団体等が登録している。2023年度は「ウェルビーイング」をテーマにした講演会を実施したほか、高知県で開催されたマルシェに参加した。マルシェでは、PF参画団体の若手社員が企画・運営に携わり、紙製品や本市の特産品・グルメをPRした。地域住民や他企業の社員とのふれあいや普段の業務とは違う作業を行うことにより、地元の魅力を再発見できたという社員も多かった。このようなイベントが毎年の恒例行事になるよう引き続き取り組んでいく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標2：「若手社員異業種合同研修会参加者数」
・参加条件に入社年数、年齢制限を設けており、加えて各企業採用人数の低下などもあり、毎回参加者数の大きな増減があるのが現状である。今後は制限範囲の拡大や参加を呼びかける企業を増やすなどの対応をする。
- 指標3：「アイデアソンにおける開催地（都市部）からの参加者数」
・予算および時間の余裕がなく実施できなかった。令和6年度以降の実施を計画している。
- 指標4：「市SDGsPFで出展するビジネスマッチング展示会における名刺交換数」
・これまでは市内紙関連企業を3社募集をし出展していたが、他企業からも出展したいとの声が多く、次回は出展企業数を増やし参加を検討している。様々な紙製品を作る四国中央市の企業が集結することにより、さらに「日本一の紙のまち」をPRでき、大きなブースは来場者の目を引くことも予想でき、相乗効果が生まれ、名刺交換数などのKPIの大幅達成も期待している。
- 指標5：「本市に住みたいと思う高校生の割合（アンケート）」
・高校側との都合がつかず実施できなかった。2024年は実施済み。
- 指標6：「市公式note『市民リポーター』記事閲覧数」
・運営開始時点から投稿数、および閲覧数は伸び悩んでいたが、地元のCATV局が素材提供含め運営に携わってくれたことにより、改善の兆しが見られている。
- 指標7：「シティプロモーション部員のUターン意向「はい」と回答した割合」
・シティプロモーション部員の選考が難航し、実施できなかった。
- 指標9：「『しこちゅ〜すくすくナビ』の登録者数」
・順調に登録者数は伸びており、親子向けイベントや母子健康診断等での宣伝がうまくいっている印象。子育て世帯を応援する事業とともに今後も更なる発展を遂げるよう引き続き取り組んでいく。
- 指標10：「脱炭素につながる製品開発に対する補助事業の活用件数」
・新製品・新技術の開発は今後の紙産業・企業の発展には欠かせないものであり、今後本事業の需要は益々増えると考える。ただし本事業を活用するためには市SDGsPFの参画が必須となっており、PFが補助事業を申請するためだけの組織にならないよう取り組む必要がある。
- 指標11：「勉強会への参加企業数」
・予算および時間の余裕がなく実施できなかった。令和6年度以降の実施を計画している。
- 指標12：「プレゼントキャンペーン投稿数」
・予算および時間の余裕がなく実施できなかった。令和6年度以降の実施を計画している。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

（4）有識者からの取組に対する評価

- ・今後へむけた中長期的な実施を期待する。
- ・子育てが楽しい都市であるとの回答の増加は印象深い。